

目次／新収蔵・新指定展Ⅰ 文化史編 表紙／いわて文化ノートp.2-3／
展覧会案内「新収蔵・新指定展Ⅰ 文化史編 ～2018年度からの新コレ
クション～」 p.4-5／活動レポート「令和4年度博物館館園実習」／事
業報告「秋のまなび教室」 p.6／学芸員室より「[ナイトミュージアム]
から」／事業報告「教員のための博物館の日」 p.7／インフォメーショ
ンp.8

新収蔵・新指定展Ⅰ 文化史編



考古
Archaeology



長倉遺跡出土土偶
長倉町所蔵 岩手県指定有形文化財(考古資料)



民俗
Folklore



磐石地域の野良岩
(伊達てと舞衣装) 複製



歴史
History



岩手県管内図
明治10年(1877年)作成

令和四年度 岩手県立博物館テーマ展

新収蔵・新指定展Ⅰ 文化史編

2018年度からの新コレクション

当館の文化史三部門(考古・歴史・民俗)が新たに収集した資料や、岩手県で新しく指定された文化遺産を紹介します。

2023年1月7日(土)
ー2月26日(日)

主催：岩手県立博物館・公益財団法人岩手県文化振興事業団
会場：岩手県立博物館 特別展示室・ミニプラザ

● 観覧時間

9:30～17:30 (入館料 6,000円まで)

● 観覧料(特設観覧)

成人1,000円・小学生500円・中学生600円・高校生700円

● 観覧料

一般910円・小学生440円・中学生490円・高校生540円(税別)

※1歳未満は無料(1歳以上2歳未満は500円)

※学校・団体等による団体観覧は別途要料あり(要予約)

※観覧料は当日現金でのみ受付となります(クレジットカード決済は不可)

※観覧料は当日現金でのみ受付となります(クレジットカード決済は不可)

新収蔵・新指定展Ⅱ
自然史編

2023年3月25日(土)ー5月7日(日)

岩手県立博物館 IWATE PREFECTURAL MUSEUM
〒02-8501 岩手県盛岡市大町1-1-1 TEL:0196-334-1111 FAX:0196-334-1112



2018年度以降、新たに収蔵された文化史(考古・歴史・民俗)資料を中心に展示します。

■いわて文化ノート

北を拓いた岩手県人—明治初期北海道開拓を中心に—

専門学芸調査員 工藤 健

■はじめに

歴史上、北海道と岩手県とは、深いつながりを持ってきました。縄文時代から古代には同じ文化圏に属し、中世、近世でも、政治的、経済的に結びつきを維持しています。江戸時代後期のロシア来航後は、盛岡藩士が北海道（蝦夷地）の警備を任せられ、ゴローニン事件、相馬大作事件といった著名な事件の原因になっています。



文化2年（1805）発行の蝦夷地図
【当館蔵】

このいわゆる蝦夷地警固については、当館2008年の企画展「北の黒船」で詳しく紹介したところです。

今回は、明治維新直後の時期を中心に、岩手県出身者が北海道の地を開拓していった実例を、各地の地方史や郷土史家の研究成果をまとめ、紹介いたします。

■戊辰戦争後の南部家と岩手県

戊辰戦争に奥羽越列藩同盟の一員として参戦し敗れた南部家は、明治元年（1868）12月に、盛岡を離れ白石へ移住します。その半年後、利剛の後を継いだ利恭が藩知事として盛岡に復帰しますが、翌明治3年（1871）7月には廃藩が認められ、利恭は知事の職を辞することになります。その後紆余曲折を経て

岩手県が現在の姿になったのは明治9年（1876）5月のこと。この期間の岩手では、統治体制の度重なる変更に加え凶作に見舞われ、一揆が続発するなど、大変な混乱の中にありました。

明治2年2月



敗戦直後の岩手県域

■明治政府の北海道移民募集

一方、戊辰戦争を制した薩摩、長州を中心とする新政府は、敗れた藩の人々に、移住と開拓を勧めます。その移住先の一つが、北海道と改称した蝦夷地でした。明治2年から4年にかけて、新政府は東北・北越地方各地で北海道への集団移民を募集します。岩手には、明治3年（1871）には開拓使の通知が届き、翌4年（1872）2月には開拓使の使者が直接、盛岡、水沢を訪れます。一連の動きを受けて、同年3月から集団移住が始まりました。

なお、旧盛岡藩領では、水沢や白石など旧仙台藩領で行われたような、藩士とその家来たちがこぞって移住、といった形のものは見られません。あくまで募集に応じた家庭が集まり、集団で集落を当

てがわれた、というもののようです。その理由としては様々な点が考えられますが、前述したこの期間の旧盛岡藩領の政治的混乱や、県主導で行われた県内の開拓事業の方が優先されたことなどは指摘できるでしょう。

その後も北海道に渡った岩手出身者は多くいますが、個人として渡道している例が多いのが、岩手県出身者の北海道移住の特徴と言えます。

次はその個人の中で、特に開拓者として現地で名を残している2名の人物を紹介いたします。

■長岡重治とアシリベツ

明治初期、岩手県出身の開拓者として最初に紹介するのは、現在の紫波町、長岡出身の長岡重治です。



長岡重治【長岡家所蔵】

彼は明治4年、開拓者募集に応じて「陸中二番組」という集団名で北海道へ移住します。当時の札幌市街の南東郊外、月寒村（現札幌市月寒区）に二番組の集落が割り当てられましたが、長岡はそこから離れます。明治11年（1879）には、隣にある集落「アシリベツ」で、札幌から南に向かう街道沿いにある休泊所の経営者となりました。次ページの絵図は、同じく岩手県出身の船越長善が描いた、アシリベツの休泊所です。



船越長善画 アシリベツ休泊所
【北海道大学植物園・博物館蔵】

休泊所は、宿泊施設や乗馬の管理所などを兼ねていましたが、長岡はその経営だけでなく、周辺の開拓を進め、集落は現在の札幌市清田区の前身となりました。清田区にある「開拓功労碑」には、下記の内容が記されています。

長岡重治翁は、明治4年4月北方開拓の大志を抱き家族とともに渡道、厚別（アシリベツ）を永住の地として入植した。

駅通（交通、郵便施設）、旅館、木材業などを経営、水田を開拓、自費を投じて道路を開き橋をかけ、神社、墓地を定めた。明治19年には自宅の建物や土地を提供して学校を創設し、開拓に大いに貢献した。子孫も同様に、私欲を捨てて土地の繁栄に力を尽くした。

長岡家の功績の大きさに感謝と敬意を捧げるとともに、功績を永遠に記念し、後世に語るものである。

このように、地域を作った功労者として、本県出身者の名が語り継がれています。

■鈴木養太と斜里

道北の知床半島、現在の斜里町で「最初の入植者」とされるのが、鈴木養太です。彼は現在の住田町上有住出身で、明治3年（1871）頃に札幌に移住します。

はじめは札幌市街の建設に従事してい

ましたが、その後猟師として道内各地を巡ったのち、明治10年（1878）に斜里町にたどり着きました。

山脈により周囲から遮られ、冬には流氷が海を埋め尽くす厳寒の地に畑を開き、それまで定住者が定着することのなかった同地を開拓した先駆者として、顕彰されています。



鈴木養太
【斜里町立知床博物館蔵】



冬の斜里町の風景（上部は流氷）
【知床斜里町観光協会提供】

■北海道の「岩手」

北海道には、移住者の故郷に由来する地名が多く残っています。伊達家によって開かれた「伊達市」、広島出身者の「北広島市」などが有名ですが、「岩手」という地名もあるのをご存知でしょうか。

道北の中頓別町には、「岩手」という大字（当館住所の「上田」にあたる）があります。この地には明治44年（1911）から大正2年（1913）にかけて、岩手県、秋田県出身者の集団が入植しました。

彼らは様々な施設を作って集落を発展させたので、現在でも「中頓別町岩手」「中頓別町秋田」という大字が残っています。

他にも、札幌市平岸区、月寒区、石狩市花畔などが、岩手県から北海道に渡った人々によって開かれた土地とされています。



「岩手」バス停

■おわりに

ここまでで紹介してきたように、岩手県と北海道との強いつながりは、近代の北海道開拓という面でもなお続いていたことが分かります。そのきっかけこそ、戊辰戦争での敗北というマイナスな出来事だったかもしれませんが、本県出身者たちは逆境の中で努力し、北海道開拓という近代日本の大国家プロジェクトの中で、確かな足跡を残したと言えましょう。蝦夷地警固の際、モロラン（現室蘭市）に置かれた盛岡藩の陣屋の跡には、藩士が地元から持参して植えた杉の木が、150年経った今も堂々とした姿を残しています。岩手県から北海道に移った人たちの業績も杉の木と同じように、目立たなくとも確かに残っているのです。



モロラン陣屋の杉

■展覧会案内

新収蔵・新指定展I 文化史編 ～2018年度からの新コレクション～

会期：令和5年1月7日（土）～令和5年2月26日（日）

はじめに

周期的に開催されております当館5部門（考古・民俗・歴史・地質・生物）による新収蔵・新指定展ですが、今年度はそれぞれ文化史編（考古・民俗・歴史）、自然史編（地質・生物）と題し、前後期で分散開催する運びとなりました。今回は文化史編から考古部門・民俗部門・歴史部門それぞれの見どころをご紹介します。

1 考古部門

(1) 県指定有形文化財

長倉 I 遺跡出土品

軽米町長倉 I 遺跡は平成6～8年に発掘調査が行われ、縄文時代後期を中心とした時期の大量の遺物が出土しました。特に通常の遺跡では数が限られる特殊な形の土器（単孔土器、香炉形土器など）、土偶や各種土製品・石製品が多数含まれます。美術工芸的な価値も評価され、北東北の縄文時代後期を代表する資料として、令和2年に県の有形文化財に指定されました。



長倉 I 遺跡 香炉形土器（軽米町所蔵）

(2) 世界遺産構成資産 御所野遺跡

令和3年、一戸町御所野遺跡が世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」の構成資産として登録されました。御所野遺跡は縄文時代中期後半（約5千年前）の遺跡で、竪穴住居の屋根が土葺きだとわかったことで、国史跡に指定され整備が

進められています。土偶が日本一多く縄文遺跡の宝庫である岩手県には、他にも多くの重要な遺跡があります。今回は御所野遺跡とともに、盛岡市市内遺跡、紫波町西田遺跡も紹介します。

(3) 国史跡 屋形遺跡

釜石市屋形遺跡は、珍しい縄文時代中期末～後期初頭（約4,400年前）の貝塚が発見されたことで令和3年に国史跡に指定されました。震災後の復興事業で発掘調査が必要になりましたが、地元熱意で工事変更・保存されることになった特筆すべき遺跡です。

屋形遺跡の貝塚はムラサキインコなどの岩礁性貝類を主体とし大規模なものでした。本展では出土した骨角器類を中心にご覧いただきます。

屋形遺跡 調査風景
釜石市写真提供

(4) 新収蔵資料 馬場焼関連資料

昭和36年に高橋昭治氏による調査で発見された、葛巻町田部に所在する近世陶器窯跡の表採資料です。窯跡は土地の名称から馬場焼と命名されました。この陶器製作技術は、江戸後期に生産された小久慈焼の影響を受けています。調査では、すり鉢、皿類、片口、碗類、徳利などの日用雑器のほか、窯道具の焼き台が採集されています。

2 民俗部門

(1) 岩手県指定有形民俗文化財 盛岡藩操座元鈴江四郎兵衛関係資料

今年度4月に江戸時代の操人形や古文書など計39点が一括で指定を受けた当館所蔵の資料です。これまで何度か紹介してきましたが、新指定資料として展示いたします。人形の特徴や古文書の意味するところなど、あやつりざもと、操座元としての鈴江家の興行の様子なども紹介いたします。

(2) ユネスコ無形文化遺産と日本遺産、国と岩手県指定・選択の無形民俗文化財

岩手県では現在も祭礼や芸能などの無形民俗文化財が多く伝承されています。中には観光行事として広く知られるものもありますが、大多数は伝承地域に暮らす方々の拠りどころとして粛々と執り行われています。このうち、平成25年度以降に国・県の無形民俗文化財に指定または選択された次の文化資産を写真と映像で紹介いたします。また、コロナ禍や少子高齢化の影響を受けて、文化財指定以後に直面している課題についても解説します。

【祭礼】一関市・大原水かけ祭り〔県〕

【神楽】普代村・鶴鳥神楽〔国〕、盛岡市・大宮神楽〔県〕、紫波町・南日詰大神楽〔県〕、花巻市・八木巻神楽〔県〕、花巻市・早池峰嶽流浮田神楽〔県〕

【剣舞】紫波町・犬吠森念仏剣舞〔県〕、

宮古市旧川井村・田代念佛剣舞〔県〕、大船渡市日頃市町・板用肩怒剣舞〔県〕

【人形芝居】花巻市・倉沢人形歌舞伎〔国記録選択〕

同時に、新たにユネスコの無形文化遺産に登録された大船渡市三陸町・吉浜のスネカ（来訪神：仮面・仮装の神々）・二戸市・漆掻き技術（伝統建築工匠の技木造建造物を受け継ぐための伝統技術・風流踊）を紹介いたします。

(3) 新収蔵資料

平成30年度から令和3年度までの民俗部門の新収蔵資料数は1300点を超えています。今回は多岐にわたる新収蔵資料の中から、昭和30年代や40年代に流行した編み機や戦前の電話機などの家電類、花巻人形をはじめとする玩具、盛岡竿や大正琴などの趣味娯楽の資料を紹介いたします。また、祭り半纏や衣袴、浄法寺椀などの漆器や漆工芸製作の道具類、業務用のアイロン、銭湯関係資料など職に関わる資料も紹介いたします。

更に、雫石地域の野良着を復元した資料も初展示いたします。この資料は雫石民芸社の階美榮子氏に、自ら野良着を作り着用していた時代の野良着を思い出しながら再現製作していただきました。雫石あねっこ装束とも称される野良着の機能的装飾的工夫をご覧ください。



雫石地域の野良着（ミチカ：上衣）

3 歴史部門

(1) いわてと戦争

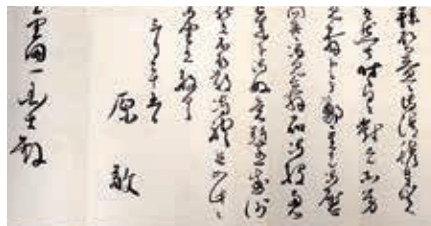
近代日本の歴史は、一面では戦争の歴史でもありました。本章では、岩手に生きた先人がどのように戦争に関わったか、実際に使用した資料から探ります。

日中戦争に従軍した岩手県出身の兵士がつけた従軍日誌、太平洋戦争中に近衛兵として近侍した菊池勲氏所用の軍帽などを展示します。

(2) 近代いわての産業と教育

戊辰戦争での敗北と混乱から始まる近代。本章では、産業や中央財界との関

わりという観点から、岩手県というアイデンティティを育て県土の発展に尽力した近代岩手の先人たちの業績を紹介いたします。



金田一国土宛敬書簡

岩手県の県境画定直後に出版された県内地図、金田一勝定氏の子国土氏旧蔵の写真や書状などを中心に展示します。

また、いわて文化史展示室では、金田一家旧蔵の貨幣や、教科書を中心とした近代の教育資料を展示します。

(3) いわての災害史

繰り返される災害と復興は、過去の先人たちにとっても現在の岩手に住む私たちにとっても、乗り越えるべき大きな壁です。本章では、岩手県出身で、東京市職員として関東大震災からの復興に貢献した田村清治郎氏の遺品、明治三陸津波後の宮古の惨状を記録した貴重な写真資料であるガラス乾板を展示します。また、関連展示として、いわて文化史展示室で、COVID-19感染症の記録に関する展示を会期に先立ち行っております。

(4) 新指定文化財

平成27（2015）年以降に指定された県内の文化財の一覧に加えて、一般の方が実際に訪れ、見ることのできる文化財を紹介いたします。

雫石町の小岩井農場で明治末期から昭和初期にかけて建てられた21棟の建造物が、平成29年に「小岩井農場施設」として国指定重要文化財に指定されました。

指定された建造物の多くは現在でも

使用され、同農場の上丸牛舎では、指定された建物のうち9棟を実際に見ることができます。

他にも多くの施設の写真を紹介し、皆様が実際に足を運ぶきっかけになるような展示となっております。



小岩井農場三号牛舎（上丸牛舎）

関連イベント紹介

(1) 講座（県博日曜講座）

令和5年1月8日（日）竹倉史人著『土偶を読む』を読む。：講師 岩手県立博物館学芸課長（考古）金子昭彦

令和5年1月22日（日）縄文土器のいろんな見方～日常什器か芸術品か～：講師 岩手県立博物館学芸課長（考古）高木晃

令和5年2月12日（日）岩手で受け継がれてきた手わざ：講師 岩手県立博物館学芸員（民俗）川向富貴子

令和5年2月26日（日）縄文の逸品「巻貝形土器」から見えてくる三陸の豊かさ：講師 宮古市教育委員会事務局文化課 副主幹兼学芸係長 長谷川真氏

(2) 展示解説会

令和5年1月22日（日）

令和5年2月12日（日）

どちらも14:30～15:30

■事業報告

秋のまなび教室

開催日：令和4年10月8日（土）～10日（月・祝）

10月8日（土）から3日間、秋のまなび教室を開催しました。「楽しみながらまなぶ」をテーマに、各部門（生物・考古・民俗・歴史・地質）が趣向を凝らした教室を行いました。対象は、中学生までのお子様とその保護者様です。

生物部門は「生きもの探偵」。博物館周辺に生息する生きものの痕跡を辿るツアーです。シラカバの根本にある小さな穴。これはカミキリムシが這い出た痕です。周辺の木々にはカモシカの角で刻まれた痕もみられます。アンケートからは「もっと色々知りたい」との声もありました。探求心に更に火がついたようです。

歴史部門は「侍になろう」。江戸時代の侍や暮らしについて学びました。鎧を身にまとい、模造刀を持って記念写真。

大判・小判を手にとりながら貨幣の価値についても考えました。

考古部門は「どきのけんきゅう」。考古学者に成りきって、土器の破片（複製）をパズルのように組み合わせて復元したり、粘土とろくろで土器づくりを体験したりしました。



民俗部門は「ミニミニ縁日」。射的や水ヨーヨー釣り、昔ながらの縁日を体験しながらお祭りについて学びました。無邪

気に遊ぶお子様達の姿が印象的でした。



地質部門は「たんけん！ 岩石園」。荒天のため地質収蔵庫を巡るツアーに変更しました。普段見られない化石や鉱物、骨格標本を前に感嘆の声があがりました。

本イベントにご参加くださった皆様に心より感謝申し上げます。コロナ禍が明け、より多くの皆様にご参加いただけることを心待ちにしております。

（主任専門学芸調査員 佐藤 修一郎）

■活動レポート

令和4年度博物館館園実習

開催日：令和4年8月18日（木）～8月25日（木）

8月18日から25日（22日休館日を除く）にかけて当館で博物館館園実習が行われました。県内外の大学から6名の実習生を迎え入れ、全日程を無事に終了することができました。

博物館には、博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他関連する事業を行う学芸員という専門職員が必要です。博物館法では「学士の学位を有する者で、大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位を修得」とあり、博物館に関する科目を履修し単位を取得すると学芸員の資格を得ることができます。博物館に関する科目の中には大学での講義だけでなく、現場での実習が含まれるため、当館でも毎年博物館実習を実施し、これまでも数多くの実習生

を受け入れてきました。当館は地質・考古・歴史・民俗・生物・文化財科学それぞれに専門の学芸員がいるため、これらの講座はもちろんのこと、解説員による講座、総務課からの講座など総合博物館ならではの多分野にわたる充実した実習内容となっています。

解説員による研修では、各々が選んだある1つの展示品の解説文を考え、展示室で模擬解説を行いました。説明する上での聞きやすさや、わかりやすい説明の構成等を熟慮している様子が窺えました。歴史部門の講座では、屏風の展示替えや実習生が事前に準備したコロナ関係の写真の展示も行いました。実際に展示をするにあたりどのようなことに気をつ

きました。民俗部門の講座では、数年ぶりに開催された民俗講座の補助を行いました。ご家族向けの講座ということもあり、丁寧な対応を心掛けている様子が見え、丁寧な対応を心掛けていたことがうかがえました。その他、展示ケースの組み立て、梱包作業なども体験し、学芸員の職務の幅広さを実感しているようでした。



（専門学芸員 昆 浩之）

■学芸員室より

「ナイトミュージアム」から

開催日：令和4年8月5日（金）・6日（土）

夏休み期間中の8月5日（金）と6日（土）の2日間、小中学生を対象とした、「夏休みスペシャル！ ナイトミュージアム」を実施しました。こちらは普段見ることができない博物館閉館後の“夜の博物館”を観覧するガイドツアーです。子どもたちに少しでも博物館への興味関心を持っていただきたいと思いますと思い始めたイベントで、これまでに多くの方の参加をいただいております。

今年度は、事前の応募抽選で当選した子どもたちとその保護者、2日間で計40名の参加です。参加者のみなさんは閉館後の博物館エントランスホールに集合し、当館職員の案内のもと真っ暗闇の中の考古、歴史、民俗、生物、地質の展示室を懐中電灯で照らしながらまわります。

暗い展示室のあちこちには、お話が大好きな学芸員が待ち受けており、参加者のみなさんはそれぞれの学芸員の解説を聴きながら展示資料を熟覧・観察しました。特に、土偶や近世以前の灯りの話、妖怪の話、鉱石に光を当てての変化の観察や鳥の鳴き声についての解説時には、子どもたちと付き添いの保護者から、「あ、ほんとだ」「え～、そうだったんだ」「なるほど」などの歓声があがりました。また、子どもたちが学芸員に積極的に質



問をして、理解を深めたり疑問を解消したりする場面も多くあり、充実した時間となりました。

当館では、子どもたちに博物館をより身近に感じてもらうことを願い、常設展示や子ども向け解説シートの工夫はもちろん、このナイトミュージアムをはじめ、年間を通してたくさんのイベントも用意しております。ぜひお気軽にお子さま連れにてご来館ください。お待ちしております。（専門学芸員 村田 雄哉）

■事業報告

教員のための博物館の日

開催日：令和4年8月5日（金）・6日（土）

本事業は、学校の先生方や教員を目指す学生の皆さんに博物館を知っていただき、学校教育での活用を促進する目的で平成28年から実施しています。学習指導要領では、博物館と学校が連携して学習活動を充実させることが求められています。そのために、まずは先生方が博物館を体験して、親しみをもちいただくことが大切だと考えています。また、当

館では学校で学芸職員が無料で講演する「出前講座」や、学習に役立つ資料を貸出する仕組みを用意していますが、まだよく知られていないように感じています。気軽に博物館を体験していただきながら、博物館が持つ学習支援機能を知っていただくことも本事業の目的です。

今回は毎年人気のある「アンモナイトのストラップづくり」や、館内ツアー「岩

手の歴史の流れ」と「骨からわかる生物の進化」の他、民家での「昔の暮らし体験」、岩手大学で開発された、ミニトマト栽培で遺伝の法則を学べる「メンデルが居たプロジェクト」の紹介とキット配布などの講座を開催しました。今後も様々な機会を通して、学校の先生方との連携を深めていきたいと考えています。

（主任専門学芸員 渡辺 修二）



昔の暮らし体験



岩手の歴史のながれについて



メンデルが居たプロジェクト解説



岩手県立博物館

IWATE PREFECTURAL MUSEUM

インフォメーション

〈令和4年12月1日～令和5年3月31日〉

新型コロナウイルス感染防止への対応について

新型コロナウイルスへの対応のため、制限を設けながら開館しております。

入館の際にはマスクの着用をお願いしております。また手指の消毒、体調確認や体温測定へのご協力をいただいております。混雑する場合は入館や利用を制限し、状況によって臨時休館となることがあります。来館される皆様には大変ご面倒をおかけいたしますが、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

最新の情報につきましては当館ウェブサイト、SNS等でお知らせいたしますので、ご確認くださいませようお願いします。

- ・「体験学習室」は、一度に利用できる人数を大人こども合わせて15名程度とし、超過した際には入室をお断りいたします。平日は、9:30～16:00に開室し、12:30～13:30は消毒などのため、一時閉室いたします。土日祝日と県内小学校の夏季休業の期間は、時間制&入替制とし、入替時には遊具の消毒などのため、一度全員に退室していただきます。
- ・「映像室」は定時上映のみ行い、上映開始後の途中入場はご遠慮いただいております。詳しくはお問合せください。
- ・幼児～小学生向けのイベント「たいけん教室」は、定員を減らして開催しています。
- ・団体での入館は午前・午後各100名程度までとします。解説時は30名まで受付、さらに数グループに分かれていただくことがあります。

お知らせ

年末年始の休館のお知らせ

年末年始は12月29日(木)～1月3日(火)まで休館します。

展覧会

●新収蔵・新指定展Ⅰ 文化史編

令和5年1月7日(土)～2月26日(日)

会場：2階・特別展示室・ミニプラザ

◆展示解説会

①1月22日(日) ②2月12日(日)

14:30～15:30 会場：特別展示室 当日受付(定員15名)要入館料

●地質情報展

令和5年3月10日(金)～3月12日(日)

会場：2階・グランドホール・特別展示室ほか

●新収蔵・新指定展Ⅱ 自然史編

令和5年3月25日(土)～5月7日(日)

会場：2階・特別展示室

◆展示解説会

①3月26日(日) ②4月23日(日)

14:30～15:30 会場：特別展示室 当日受付(定員15名)要入館料

県博日曜講座

第2・第4日曜日 13:30～15:00 当日受付 聴講無料

当館学芸員等が岩手の文化や歴史、自然について解説します。

*展覧会関連講座

12月11日『「統 雑学のススメ」(笑いと頭の体操)～中高年の皆さんと一緒に考える日本語(大丈夫ですか、その日本語)と名言(あまり知られていない心が潤う名言)～』 講師：高橋廣至(当館館長)

12月25日「文化財を守るための環境管理紹介ツアー」

講師：山崎遙・丸山浩治(当館学芸員)

* 1月 8日「竹倉史人著『土偶を読む』を読む。」

講師：金子昭彦(当館学芸課長)

* 1月22日「縄文土器のいろいろな見方～日常什器か芸術品か～」

講師：高木 晃(当館学芸課長)

* 2月12日「岩手で受け継がれてきた手わざ」

講師：川向富貴子(当館学芸員)

* 2月26日「縄文の逸品『巻貝形土器』からみえてくる三陸の豊かさ」

講師：長谷川 真氏(宮古市教育委員会事務局文化課主査)

3月12日「困った鳥：カワウ」

講師：高橋雅雄(当館学芸員)

3月26日「絵図の魅力に触れる～本館収蔵の絵図を題材に～」

講師：村田雄哉(当館学芸員)

冬休みスペシャル

★ワードクイズ★

パズルをときながら展示室をたんけん！ 3種類のクイズシートからえらんでちょうせんしよう！

期間：令和4年12月20日(火)～令和5年1月13日(金)

9:30～(博物館が開いている時間ならいつでもOK)

★ワクワク！子どもツアー★

たからものがいっぱい展示室を、解説員といっしょにたんけんしよう！

期間：令和4年12月27日(火)～令和5年1月13日(金)

土、日曜日10:30～、土日以外14:00～

30分程度

週末の催し

◆ミュージアムシアター

毎月第1土曜日 13:30～15:00頃 講堂 当日受付 視聴無料

○12月3日 フィルム映画第2弾(アニメ/103分)

フランダースの犬

○2月4日 現代の名作(実写/131分/一般向け)

おくりびと

○3月4日 小津安二郎の名作2(実写/136分/一般向け)

東京物語

※1月はお休みします

◆チャレンジ！はくぶつかん

毎月第2・第3土曜、日曜、祝日 小学生向け 随時受付

チャレンジ！マークをさがしてはくぶつかんをたんけん！

12月10日・11日・17日・18日 テーマ：終わり(おわり)

1月14日・15日・21日・22日 テーマ：新しい(あたらしい)

2月11日・12日・18日・19日 テーマ：貰う(もらう)

3月11日・12日・18日・19日 テーマ：三(さん)

◆たいけん教室～みんなのためそう～(事前申込制)

毎週日曜日 13:00～14:30

幼児(3歳以上で保護者同伴)・小学生10名程度

さまざまな遊びやものづくり、実験を体験してみましょう。

※全プログラム有料です(材料費代/プログラムごと異なります)。

※予約は専用メール(一度に3名まで)で受け付け、応募多数の場合には抽選を行います。詳細は博物館ホームページをご確認ください。

※3月5日と12日はお休みです。

12月	4日	松ぼっくりのXmasツリー	2月	5日	土偶づくり
	11日	たごづくり		12日	化石のレプリカ
	18日	かんたん門松		19日	おひなさまづくり
	25日	まゆで千支づくり(卯)★		26日	スライムであそぼう
1月	15日	木のかまの絵つけ	3月	19日	アンモナイトの消しゴムづくり
	22日	まが玉アクセサリー		26日	手づくり万華鏡★
	29日	紙コップのあやつり人形			

★印は午前(10:00～11:30)と午後(13:00～14:30)の2回あります。

利用のご案内

■開館時間 9:30～16:30(入館は16:00まで)

■休館日 月曜日(月曜日が休日の場合は開館、翌平日休館)

年末年始(12月29日～1月3日)、9月1日～10日(資料整理のため)

■入館料 一般310(140)円・大学生140(70)円・高校生以下無料

()内は20名以上の団体割引料金

※岩手子育てパスポート所有者で、パスポートに記載のお子様と一緒に来館された場合は、入館料免除となります。

※学校教育活動で入館する児童生徒の引率者は、申請により入館料免除となります。

※療育手帳、身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方、及びその付き添いの方は無料です。

岩手県立博物館だより 第175号 令和4年12月1日発行	編集	岩手県立博物館 〒020-0102 盛岡市上田字松屋敷34 Tel. (019)661-2831/Fax. (019)665-1214
	発行	公益財団法人岩手県文化振興事業団 〒020-0023 盛岡市内丸13-1 Tel. (019)654-2235/Fax. (019)625-3595